

皆さん、おはようございます。生徒の皆さん全員が新型コロナウイルス感染症の予防に努めてくれたお陰で、本校から1名の感染者も出さず、本日無事に1学期の終業式を迎えられたことをとても嬉しく思います。7月の下旬から昨日まで、埼玉県内では多くの感染者が出ており、県内の高校でも複数の学校で感染者が出て休校、校内立ち入り禁止等の措置が取られています。引き続き、皆さんには感染予防に努めていただきたいと思います。

さて、3年生の皆さんは、進路決定に向けて大切な時期を迎えようとしています。夏休み中は就職試験、入学試験に向けた準備をしっかりとしてください。試験というと、面接を伴うところが多いと思います。ミサワホーム社長の三澤千代治さんは、入社試験の面接で必ず、「あなたは運が良い方ですか、悪い方ですか？」と聞くそうです。さあ、皆さんは今、このような質問を受けたら何て答えますか。

三澤社長は「すごく良い方です。」と答える人間を優先的に採用するそうです。仕事をしていれば、どんな人でも必ず良い時と悪い時があります。その悪い時に、「自分は運が悪いからだ」と思い込む社員は、会社全体を悪い運に巻き込んでしまう傾向がある、というのが理由だそうです。

今日は、この「運」ということについて考えてみたいと思います。

ある路線バスの運転手のお話を紹介します。

ある日、泣き叫ぶ赤ちゃんを抱き抱えた若い母親が、乗車して間もなくのバス停で降りようとしていました。その時、運転手が「ここが本来の目的地ですか」と聞きました。通例であれば余計なお世話に近い行為です。しかし、若

い母親は「本当は新宿駅まで行きたいのですが、子供が泣き叫ぶので」と答えました。その時、運転手は次のように車内アナウンスをしました。「皆さん、この若いお母さんは新宿まで行くそうなのですが、赤ちゃんが泣いて皆さんに迷惑がかかるので、ここで降りると言っています。子供は小さいときには泣きます。赤ちゃんは泣くのが仕事です。どうぞ皆さん、少しの間、赤ちゃんとお母さんを一緒に乗せて上げてください。」

車内から自然に拍手が沸き起こったそうです。

さて、この話を聞いて皆さんはどのように感じましたか。この話は運転手の美談として語られています。若いお母さんはこの運転手のバスに乗れて運が良かったのでしょうか。

実は私はこの話を聞いて、この若いお母さんに焦点を当ててみました。ここからは、私の推測でしかありませんが、このお母さんは泣き叫ぶ赤ちゃんを抱いて、本当に周りのお客さんに申し訳なさそうにしていたのではないかと思います。もしかしたら、周りの方に「すみません」と謝っていたかもしれません。バスの運転手は、安全のために前方に最大の注意を払っていますが、ちらちらとバックミラーで車内の安全確認も行っています。その時に、お母さんの申し訳なさそうな様子が写ったのではないのでしょうか。だからこそ、「本来の目的地ですか？」という質問に繋がったのだと思います。また、お母さんが他の乗客に迷惑をかけないようにと目的地手前でバスを降りようとした気持ちが乗客にも伝わったからこそ、運転手の問いかけに拍手が起こったのだと思います。もし、泣き叫ぶ赤ちゃんを抱いて平然として、全く

周りを気にしないお母さんだったらどうでしょう。運転手も何も聞かないのではないのでしょうか。というより、目的地手前でバスを降りようという行為に繋がらないと思います。そうなったら、周りの乗客には不快な想いだけが残ったでしょう。

この若いお母さんは、新宿でバスを降りるときも、きっと運転手や周りの乗客に「ありがとうございました。」と頭を下げたはずです。その「ありがとう」で運転手も乗客も幸せな気持ちになれたことと思います。

私は、この若いお母さんは運が良かったわけではなく、お母さんの周りの人に対する気遣いや感謝の気持が運転手や乗客の行動に繋がり、自らの運を引き寄せたのだと考えます。このように、「運」というのは天に任せるものではなく、自分自身で引き寄せるものではないのでしょうか。

1 学期の始業式に大谷翔平選手の目標達成シートを紹介しました。その中には「運」という項目があり、運を良くするための目標の一部も紹介しました。今日は、その全てを紹介します。「あいさつ」「ゴミ拾い」「部屋掃除」「審判への感謝」「読書」「応援される人間になる」「プラス思考」「道具を大切にする」の八つです。そんなに難しいことではないと思いませんか。つまり、当たり前のことを当たり前に行っていれば、自然と運が味方してくれると言えるのではないのでしょうか。

明日からの夏休み、日頃の自分の行動を振り返り、「運」を高めるために改善できるところから取り組みましょう。

以上で、私のお話を終わりにします。